

令和6年度 家庭教育学級 開催のご報告

晩秋の候、PTA会員の皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

10月22日に『小学生の親として知っておきたい性教育』をZoomにて開催いたしました。

講師には、シオリーヌ（大貫 詩織）先生をお招きしました。性に関する権利のお話、具体的な性教育の必要性、今知っておきたい親としての心構え等、幅広い内容を分かりやすく丁寧に教えていただきました。

【講師の紹介】

助産師／性教育YouTuber シオリーヌ（大貫 詩織）先生

神奈川県出身。

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 助産師課程卒業後、総合病院の産婦人科病棟に助産師として勤務。

2017年から性教育の講演活動を開始。その後、精神科病院の児童思春期病棟に看護師として勤務ののち、

2019年からYouTubeにて性教育を伝える動画投稿を開始。YouTubeチャンネルでは、性の知識を気軽に学べる動画を配信中。

著書：『CHOICE自分で選びとるための「性」の知識』

株式会社Rine代表取締役

NPO法人コハグ代表理事

助産師 看護師 保健師 受胎調節実地指導員 思春期保健相談士（日本家族計画協会）

性教育認定講師（日本思春期学会）

講座内容

1. 若者のもつ大切な権利

- ・性教育でなぜ権利の話？⇒性教育とは人権教育といわれている。

自分の持っている権利について知ること、自分以外の人を持っている権利について知ること、そしてお互いの権利を尊重し合う関係性を築くこととはどういうことかを学ぶのが性教育。

- ・性に関する権利「SRHR (Sexual Reproductive Health and Rights)」⇒性と生殖に関する健康と権利とは？

あなたの身体や人生は、あなただけのもの。

あなたの身体や人生について決める権利は、あなた自身にしかない。

性(Sexual)に関して選択する権利が認められていること、生殖(Reproductive)妊娠出産を選択する権利が認められていること…全ての子どもたち、すべての人々に尊重されなければならない権利であることを知っておいてほしい。

2. 日本で行われている性教育

日本の中学校では、思春期には妊娠出産が可能となるような成熟が始まることから、受精や妊娠についての内容は取り扱っている。しかし、妊娠の経過は取り扱っていない。

⇒「精子と卵子が受精して受精卵になり、着床すると妊娠します」というプロセスは伝えるが…

「その精子と卵子はどうやって出会うのですか？」という具体的なプロセスの話は取り扱わないということ。

先生が指導してはいけないわけではないが、学習指導要領に記載されていない教育へのハードルがあり、現場の先生が必要を感じていても、現在の制度では難しいのが現状。

3. 性教育の世界基準

では国際的な性教育の基準はどうなっているのか？

- ・WHOやユネスコが定める国際的な性教育基準「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」の内容は…

人間関係／価値観、人権、文化、セクシュアリティ／ジェンダーの理解／暴力と安全確保
健康と幸福のためのスキル／人間のからだと発達／セクシュアリティと性的行為／性と生殖に関する健康

とても幅広い内容になっている = **性教育とは、人間が自分の身体を持ち、人と関わり合いながら、その社会で、健康かつ安全に生きていこうと思うときに必要な知識。**

・発達に応じた学習目標は…

5～8歳…妊娠が始まるためには精子と卵子が結合し子宮に着床する必要があることを説明する。他

9～12歳…性交の結果で妊娠が起こりうる、または常に妊娠するわけではないことを再認識する。他

12～15歳…妊娠は計画的にすることも防ぐこともできることを再確認する。生殖機能と性的感情には違いがあることを確認する。他

15～18歳…妊娠を希望しているが不妊を経験している人の選択肢を挙げる。他

具体的な学習の基準が書かれているので、何歳になったら話せばいいのか？と思ったら参考にしたい。

4. 具体的な性教育を受けた若者の声

早期の性教育は、興味関心を煽るのではないかと恐れがちだが、実際は**きちんと性教育を受けたことで性に関して慎重になり、初めての性行為の時期が遅くなる傾向が見られた**。シオリー又さんのYouTubeを見た若者たちから「こんなこと誰も教えてくれなかった。もっと早く知りたかった。」という声がたくさん寄せられている。
⇒子どもたちが辛い思いをしないためにも、健康に安全に大人になってもらうためにも性教育は重要なのである。

5. 性の話、子どもにどう伝える？

私たち大人も、学校や身近な大人から具体的な性教育を受けてこなかった。自分がどう教わったかも曖昧なことを子どもたちに教えることは難しいこと。⇒親として今これだけでできれば花丸な、10個の心得をご紹介します。

- ① **ウソをつかない**… 「赤ちゃんて、どうやってできるの?」「コウノトリが運んでくれるんだよ…」
親のウソは大きくなってからショックを受けることが多い。返答に困ったら「調べてから教えるね」と一旦保留して、伝え方を調べたうえで改めて話す。または性教育の絵本等を一緒に見て学ぶのもよい。
- ② **子どもの気持ちをそのまま受け取る**… 「赤ちゃんはどこから来たの?」「やめなさい、そんな恥ずかしい話!」
子どもは単なる知的好奇心で聞いている。否定せずに「それが気になったんだね」と、良いとも悪いともジャッジしない、ノンジャッジメンタルな姿勢で受け取ることが大事。
- ③ **代わりに決めない**… 「子どもの苦勞を減らしてあげたい」??
人生の主導権を握っているのは子ども本人。大人は子どもたちのサポーターになろう。
- ④ **常識を押し付けない**… 「自分の常識、他人の非常識!」
あなたの常識が全てではないということを、今一度見つめ直してみよう。
- ⑤ **性の話を捉えなおす**…
教わっていないことを教えるのは難しいこと。大人も学ぶことが大事。
- ⑥ **性別で判断しない**… 「ドレスが大好きな男の子」「虫に夢中な女の子」
ジェンダーは、社会によって作りだされる性差。ジェンダーにまつわる押し付けは未だ根強く「男らしさ」「女らしさ」という感覚を無自覚に学んでいる。「好き」を否定しないことが大切。
- ⑦ **多様な性があることを知る**…
最近よく耳にする**LGBTQ+**とは、L（レズビアン）G（ゲイ）B（バイセクシャル）T（トランスジェンダー）Q（クエスチョニング・クィア）+（その他）**性的少数者の総称**。
SOGI（ソジ）とは、S（セクシュアル）O（オリエンテーション）&G（ジェンダー）I（アイデンティティ）＝「好きになる性と自分が認識する性」のことで、**一人一人が持つ自分らしい性のあり方表した言葉**。よってこの言葉の中には、性的多数者（異性愛者）も性的少数者も含まれている。ここで大切なのは、**性のありかたに優劣はない**ということ。そしてその考えを社会的にも当たり前にしていくことが今後の課題。

⑧ 親子は対等であることを忘れない… 「なぜそんなことを!？」と思っても本人なりの理由がある!

子どもでも、自分のことは自分で決める権利がある。

⑨ 親だけで抱えない…

親も分からないことが多い性教育。ネットや動画、本、漫画、絵本でもいいので頼ってみよう。

⑩ 子どもを信用する…

性教育で最も大事なものは「上手な子離れ」かもしれない。

最後に…シオリー又さんが考える、お家の性教育で何よりも大切な事それは…

何かあったときに言える関係を作っておくこと

家庭の中で性の話を絶対に聞けない雰囲気があったり、聞いたときに否定されたという経験があったりすると困ったときに言えない関係性ができてしまう。何かあったら全力で支えてくれる大人がいる、そんな関係を築いてほしい。

《質疑応答》

Q1：デリケートゾーンや二次性徴については、大まかですが説明しているのですが、いずれは性交渉、避妊についての正しい知識も伝えたいと思っています。これらを伝えるにあたり、適切な年齢はありますか？

A：先ほどご紹介した「発達に応じた学習目標」を参考にすると、小学校高学年前には、生理や射精等、自分の身体のことや妊娠の仕組みについて、中学生の頃には避妊についても伝えていけるとよい。

Q2：現在、娘は三年生なのですが、感覚的にまだ早いように感じており、伝える時期を悩んでいます。動画や画像など、検索すれば何でも見たり調べたりできる時代になり、性的な情報や知識も簡単に手に入るようになっていくと思います。その中で事前にできること、親として気をつけられることがあればアドバイス頂きたいです。

A：アダルトコンテンツを調べていなくても、いつのまにか見てしまうことも多い。正しくない情報も多いため、前もって正しい知識を伝えることが大切。一緒に性に関する絵本を読んでみる等、土台を作ってあげて欲しい。

Q3：息子が初めて勃起した時、見てみぬふりをしたほうがいいのか対応の仕方を教えて下さい。こちらも照れ臭くて茶化してしまいそうです。

A：茶化したり笑うことはトラウマになる事もあるため、子供から質問がないならば触れなくてもよいかもしれない。この場合も、事前に今後起こりうる体の変化を伝えておけると良い。

Q4：親が見ていない時にパソコンなどで(おっぱい)と検索し、いかがわしい動画を見ていることが検索履歴でわかりました。本人は親にバレていないと思っているようですが、自然なこととして放っておけば良いのでしょうか？

A：知りたい気持ちは否定しないで欲しいが「みんなが使っているパソコンで調べるのはお勧めしないよ」と伝えたり、後にパソコンを使う家族が履歴を見て驚かないように、検索履歴を削除する方法もあると教えてあげるのもよい。また、年齢制限があるような動画は見てはいけない等、最低限のルールを伝えておくことも大切。

Q5：性教育は専門的でハードルが高いイメージがあります。家庭でも性教育を教えていければ、と思いますが話しやすいテーマなどあれば、アドバイス頂ければと思います。

A：性教育の話を日常会話にしてタブーにしないことが大切。お母さんが生理の時に「今日は生理だからお腹痛いんだ」と伝えたり、買い物時に一緒にナプキンを買う等「性」を隠さずに日常の中に取り入れることが第一歩。

Q6：夫との役割分担や、協力を得やすくする秘訣があれば教えていただきたいです。

A：夫の協力を得にくいといった相談は多い。難しく話すよりは「思春期に悩んだこととかなかった?」「自分もその時誰かに教わっていたら助かったなと思うようなことはない?」等、世間話のように聞いてみるのも良い。

Q7：最近では小学生でも付き合っているという話を聞きます。反対はするつもりはないですが、親としてどのようなことを伝えればいいですか?

A：人権教育が大切。自分の体は自分のもの、相手の体は相手のものであって、交際をしてもその子が自分のものになるわけではないこと。スキンシップも同意が必要なんだということを伝えてあげて欲しい。

●講演後のアンケートでは、

「シオリー又さんの話がわかりやすく、大変満足感のある講座だった。」

「まずは自分で勉強してから、子供と一緒に学んでいきたい。」

「性の話を“日常会話”としてオープンに話せる関係性を持てるように心がけたい。」

「何かあった時にちゃんと言ってもらえるような親子関係を築いていきたいと思った。」

「性教育の心構えを聞いて、親が子供に取るべき姿勢そのものだと感じた。」という声を多数いただきました。

アンケートにご協力くださり、誠にありがとうございました。